

自分自身への気付きへと高める生活科学習についての研究

—メタ認知を機能させた活動を通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（生活）

近藤 彩子

生活科では気付きの質を高めていくことが求められている。本研究では、メタ認知を機能させるような活動を取り入れることによって、気付きの質が「自分自身への気付き」まで高められるか研究した。

気付きの質を高めるために、「振り返り活動」と「他者と関わる活動」中心に、メタ認知を働かせられる場を設定した。

① 自分自身について気付く表現活動

アサガオが主人公の絵本をかいたことで、自分の姿を客観的に捉えることができ、自分の良さに気付いた姿や、学ぶ楽しさを実感した姿が確認できた。

② 以前の経験や知識が生かせる繰り返し活動

1年間に2度アサガオの栽培活動を行ったことで、メタ認知活動が働きやすくなり、深い思考を引き出すことができた。充実した活動を作り上げることができ、子供たちは自分の可能性に気付くことができた。

③ 自分の成長を見つめなおす他者と関わる活動

自分では気付けなかったことに気付いたり、より強く認知したりすることができた。